

11月9日朝の勉強会 W先生

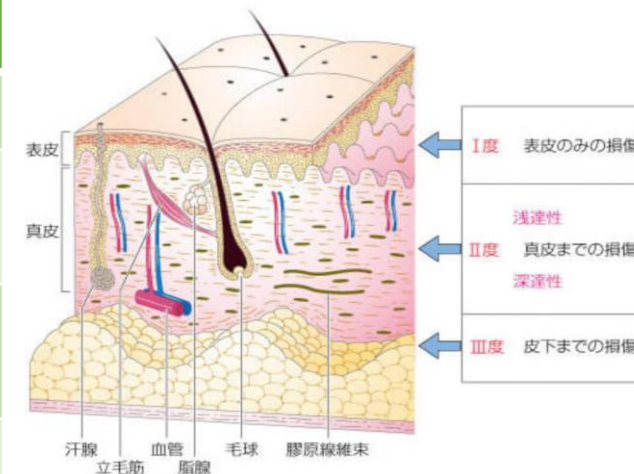
テーマ「やけど」

気道熱傷を疑うポイント

- ・ 閉所空間での熱傷
- ・ 喘鳴や呼吸窮迫
- ・ 顔面、頸部の熱傷
- ・ 口腔咽頭にススの付着や発赤あり
- ・ 声や呼吸状態の変化

深達度

	外観	痛み
I度熱傷	発赤のみ	ヒリヒリ
浅達性 II度熱傷	水疱あり 水疱底：赤	強い痛み
深達性 II度熱傷	水疱あり 水疱底：白	知覚鈍麻
III度熱傷	白・褐色・黒	知覚なし



Take home message

- ① 気道熱傷が疑われたら **挿管** の準備
- ② 深達度は、**水疱の有無、皮膚色、痛覚** で評価
- ③ **ワセリン** は間違いなし

喘鳴や呼吸促拍
PaO₂ < 60mmHg,
PaCO₂ > 55mmHg
顔面・頸部のIII度熱傷

なし

あり

1. 直ちに気管挿管
2. 加温酸素投与
3. 熱傷センターへの搬送を考慮
(不可能な場合にはICUで管理)

気道損傷の徴候
・ 口腔咽頭に煤付着、発赤
・ 声・呼吸状態の変化
・ 気道熱傷が疑われるエピソード

なし

あり

喉頭：
浮腫・水疱あり

直ちに
気管挿管

熱傷センター・
高次医療機関
への搬送を考慮

喉頭：
軽度発赤のみで
著明な浮腫なし

注意深く
経過観察

注意深く経過観察

図2 初期気道管理のフローチャート（救急診療指針、第5版より一部改変）

明らかな喉頭浮腫がない場合でも、粘膜の発赤や腫脹、鼻毛の焦げ、鼻粘膜、口腔、咽頭粘膜の煤の付着がある場合注意深い経過観察が必要である。